

平成27年度 北信越フロッククラブネットワークアクション2015

開催報告

日時： [第1日目] 平成27年11月14日（土） 13:00～17:00

[第2日目] 平成27年11月15日（日） 9:30～12:00

会場： ボルフアートとやま

内容：

[1日目]

- ①講演 「さあクラブの出番です！健康づくりに介護予防！」
- ②パネルディスカッション 「協働からクラブの可能性を探る」
- ③日本体育協会からの情報提供

[2日目]

- ①グループワーク 「我がクラブのプログラム紹介」
- ②プログラム体験 「介護予防プログラム」 「幼児プログラム」

【概要】

「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」にもあるように、全国調査の結果として自己財源比率が非常に低いクラブが多いことから、テーマ「自己財源率アップのために」を設定しました。

その一つの方策として日本体育協会、地方公共団体、関係機関・団体との連携を取り上げました。連携・協働によりクラブの公益性を高め受託事業につながるように、2日間を通じたストーリーとして様々なスキルの重要性を学べるような構成としました。

1日目は、日本体育協会公認スポーツドクター、県スポーツ担当課との連携協働、そして行政との協働を確かにするための公認資格の重要性、協働のためのクラブ側から行政への積極的な働きかけ、資金確保の有効な手段としての指定管理制度の新しいかたちなどの内容が紹介されました。

2日目は、しっかりとした意図や展望を持って企画された各クラブのプログラム紹介、そして各スキルを身につけ何年も行政と協働してきた受託プログラムを2つのクラブから実技も交えて実施しました。

[1日目]

【講演について】

演 題：「さあ、クラブの出番です！健康づくりに介護予防！」

講演者：上村 伯人 氏（日本体育協会公認スポーツドクター）

スポーツドクターとして、また、総合型地域スポーツクラブ（エンジョイスportsクラブ魚沼）の理事長としてクラブに関わり、実際に健康づくりや介護一次予防をクラブのメインプログラムとしていることによる具体的かつ実践的な講演内容でした。

社会保障給付費の変化や社会保障財源の全体像、平均寿命の延伸によるライフサイクル、少子高齢化などの問題点を分かりやすく説明されました。生涯で見た給付と負担のバランス、社会保障にかかる費用の将来推計、安定財源確保、地域包括ケアなどの説明がありました。一時予防の担い手としての総合型地域スポーツクラブの出番の背景がとてもよく分かる内容でした。



【パネルディスカッションについて】

テーマ：「協働からクラブの可能性を探る」

・・・自己財源率アップのために

パネラー1 「クラブと行政が一体となつての課題解決」

岡村 誠 氏（新潟県民スポーツ課）

新潟県行政と連絡協議会の長年の信頼関係から発展していった協働事業の成果が発表されました。

- ・ H23 総合型クラブ実務担当者研修（市町村担当者と合同）
- ・ H24～25 総合型協働モデル事業（市町村健康福祉部局・大学・医療機関と協働関係を構築し、地域住民に対して自主事業を展開。指導者内部化とノウハウ習得。2,400千円（1クラブ800千円/年）
- ・ H26 総合型クラブ協働促進事業（協働モデル事業でノウハウを得たクラブが他のクラブへ伝達）・成果発表会と研修受け入れ（NPO法人エンジョイスportsクラブ魚沼7クラブ受託・新発田市とらい夢3クラブ受託2,090千円
- ・ H26 総合型クラブ経営力強化事業 協働促進事業の研修の受講や、医療・健康福祉分野と協働するために必要となる資格（健康運動指導士等）取得を支援。350千円×11クラブ事業の成果として、自主事業の充実（事業に参加したほとんどのクラブで、医療健康福祉分野との協働関係が構築され事業が充実）、自主財源の確保（5クラブで市町村健康福祉部局から健康づくりや介護予防事業を受託⇒委託事業収入が増加）、職員の処遇改善（5クラブで職員の賃金アップ・・・27年度中に6クラブが賃金アップ予定）などが挙げられる。
- ・ H27～29 他分野（教育・子育て観光等）に展開



パネラー2 「協働の関係を確かにする公認資格の重要性」

岡 達生 氏（日本体育協会スポーツ指導者育成部長）

公認資格とは「一定のレベルをクリアし、スポーツ指導者として必要な能力を有する者であることを証明するもの」であり、総合型地域スポーツクラブにとって、公認資格は様々なシーンで必要不可欠であることが説明されました。また、スポーツ指導とは、技能・パフォーマンスの向上、人間の総合的成長、スポーツの価値や意義を高めるという要素を含む社会的活動であり、求められる資質能力も多岐にわたることから、講習などを通して幅広く資質能力を高めていく必要性についても話がありました。発表の最後には、北信越ブロック各県の指導者登録者数が示され、多くの資格保有者がいることを再認識しました。

パネラー3 「積極的な働きかけによる行政との関係づくり1」

高橋 孝明 氏（NPO法人びいすく美川クラブマネジャー）

びいすく美川は、①地域の事情をよく考慮し、②地道な種まき（人間関係構築の）活動を行うことで、行政との協力事業（事務局受託、受託事業、共催協力事業など）を実現させました。クラブの理事として、体育協会、スポーツ少年団、老人会、スポーツ推進委員、学校の教員、保護者等が関わり、行政とともに勉強や研修会を実施したことが、地域の実情に合わせた運営ができるよう行政と共に考え、動くという具体的な行動につながりました。その結果、地域の活動を支えることができる団体として、多くの事業を担っています。

パネラー4 「積極的な働きかけによる行政との関係づくり2」

石田八洲子 氏（NPO法人さばえスポーツクラブクラブマネジャー）

さばえスポーツクラブは、行政側のキーマンとのコミュニケーションを通して、関係作りを成功させました。具体的には、クラブ側の思いと行政側の思いのずれに気づいたことで、クラブから行政へ何かを求めるだけでなく、行政の求める成果に耳を傾けるようになり、予算獲得に向け助言をいただけるような関係になりました。助成事業に慣れ、しっかりと事業を実施していく中で、信頼あるWin-Winの関係が築けるようになり、継続して協力を得ることができるようになっています。



パネラー5 「体協との協働・住み分け」

室賀 大樹 氏（長岡市スポーツ協会振興係主任）

市スポーツ基本計画に沿って「コミュニティスポーツクラブの推進・設置」をスポーツ協会自らが行いました。その結果、合併した各地区に6つの総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、ライフステージ別プログラムの展開や種目別の「体験・きっかけ作りの仕掛け」から初心者～継続・愛好へと繋げました。総合型と地区体育協会が交わりながらの協力関係です。そんなベースを元に、今後の推進体制として「スポーツの1本化」そして「健康・スポーツの一本化」を目指しています。それは 公民館・コミュニティセンター（福祉・健康）＋地区体協＋総合型地域スポーツクラブ＝地域総合クラブ（新しい組織）化 という先進的な図式です。

パネラー6 「本来業務を確保しての指定管理の新しいかたち」

高木 貞介 氏 (NPO法人エンジョイスポーツクラブ魚沼アドバイザー)

総合型地域スポーツクラブが指定管理を受けたために本来業務に支障をきたす事例が全国で聞かれます。そこで、エンジョイスポーツクラブ魚沼は専門の運動に関するソフト事業と体育館を統括管理することのみに専念し、ハード面や人事・経理などのノウハウを持った建設会社と企業体を組むことで問題を解決しました。統括業務の中から人員配置の見直し、電力料削減等で資金を生み出し、ランニングマシン5台購入やアリーナ照明のLED化、トレーニングマシン整備、館内整備を行いました。利用者目線での管理業務と市体育施設のグレードアップは入館者を倍増させ、新しい公共としての総合型地域スポーツクラブの新しい指定管理のかたちを示しました。

[2日目]

【グループワークについて】

「我がクラブのプログラム紹介」

グループごとに、あらかじめ用意してきたプレゼン用紙を元に各クラブ4分間プレゼンを行いました。アドバイザーや実行委員がファシリテーターを務め、それぞれのクラブの多様な取組みを共有しました。



“収益性” “公益性” “将来性”などを基準に、これからの総合型地域スポーツクラブのプログラムとして注目できるものを、各グループから1クラブずつ選出し、全体の前で発表していただきました。発表後は全体で議論を行い、プログラムのより深い内容や実施にいたるまでの経緯・背景などについて、共有しました。



【プログラム体験について】

「介護一次予防プログラム」 星 俊寛 氏 (NPO法人エンジョイスポーツクラブ魚沼)

講義では、体力づくりに必要となる要素について説明があり、継続には楽しさが必要なこと、また運動で認知症を食い止めることができること、体力は高齢者でも向上することなどの説明がありました。プログラム体験では全身じゃんけんや、難易度の高いしりとりなどが行われ、グループごとに楽しそうに盛り上がる様子が見られました。

「幼児プログラム」 辺見 元孝 氏（木曾ひのきっ子ゆうゆうクラブ）

講義では様々なプログラムの紹介があり、5つの感覚を使い、ふれあい・声かけ・リズムなどの要素を取り入れながら行っていくことの大切さについて説明されました。プログラム体験ではストーリーを使用した遊びが行われました。このプログラムでは、おなかに力を入れる感覚を身につけさせるとともに、呼吸からリズムとタイミングづくりを行い、重力感覚をレベルアップさせることができると説明がありました。



どちらのプログラムも長年の継続により身につけたスキルを基にしたプログラムだけに、参加者には好評だったようです。

【まとめ】

今回はビジネスとして捉えたクラブの「経済的な価値観と社会的価値観の両立」を考え、行政やその関係機関との協働や事業受託からのクラブの安定経営を考えました。そのために必要なスキルは何か、そして何をしなければならないかを学びあいました。

各県の連絡協議会から県行政へのアクションや、各クラブから市町村行政や関係団体（体協・スポ少ほか）へのアクションの方法を学びあいました。そしてその結果としての先進クラブのプログラムを体験しました。少し盛りだくさんの内容だったため、時間が足りない感がありましたが、アンケート結果からも意図は伝わったと思います。

参加クラブや講演者・パネラーに研修意図を事前に周知するため、ホームページ (<http://espouonuma.com/hokusinetuwp/>) を立ち上げました。次年度へとつなげるために開催報告や意見集約も行います。来年へとつながるネットワークアクションが開催できました。

【とやまSCネットの取組み】

とやまSCネットでは、クラブの活動を広く知ってもらうとともに、総合型クラブの意義・役割等への理解を深めてもらうことを目的に、クラブで作成した広報物のコンテストを行っています。今年度については、ネットワークアクションにて掲示し、当日の参加者ととやまSCネット理事の投票により、入賞作品を決定します。

審査の基準は、①内容の評価 ②クラブPRに関するキャッチコピー ③デザイン性、アピール度の3点から審査していただきます。今回は25クラブより応募がありました。3月に最優秀賞、優秀賞、佳作を表彰し県内クラブの発展と活性化につなげていきたいです。



北信越ブロッククラブネットワークアクション 2015

実行委員長 高木 貞介